漏出性無月経患者では結合型 estrogen 投与に対する LH の放出がみられないことを J. Clin. Endocrinol Metab (42: 696, 1975) に我々が発表している。

質問 (群馬大) 佐藤 恒治

間脳性無月経と診断されたとありますが、原発性甲状腺機能低下症と診断される前のことですか。

答弁 (大阪大) 青野 敏博

原発性甲状腺機能低下症と診断したあと、LH-RH test の反応などから間脳障害パターンと診断した。

質問 (徳島大) 高橋 久寿

1. T_3 投与、CB-154ではじめて排卵を認めていたが、初期より CB-154を投与するとどうなるでしょうか。

2. PRL, TSH による short feedback メカニズムは考えられないか、御教示下さい。

答弁 (大阪大) 青野 敏博

1. T_3 投与のみで排卵性月経を認めたが、血中 PRL 値が正常の上界を推移し、乳汁漏出が停止しなかつたので CB-154を投与した。原発性甲状腺機能低下症に対してはまず甲状腺剤を投与すべきと考えます。

2. short feedback mechanism は PRL, TSH とも動物実験的に認められています。

138. ヒデルギンの血中エストロジェン→エストロジェン及びゴナドトロピンへの影響

(自治医大) 田村 貴, 玉田 太朗

意義: 我々は先に第21回日本不妊学会総会に於て、3種の麦角剤(ジヒドロエルゴクリプチン, ジヒドロエルゴクリスチン, ジヒドロエルゴコルニン)の合剤であるヒデルギンが下垂体プロラクチン(PRL)分泌抑制作用をもち、かつ産褥の乳汁分泌停止に極めて有効であることを報告した。今回はこれを更に一步進めて本剤の乳汁漏出性無月経症における排卵誘発効果及びゴナドトロピン, エストラジオール(E_2)分泌への影響を観察した。

方法: 対象として4名の乳汁漏出性無月経症及び2名の無排症をえらんだ。このうち5名に本剤2錠投与後、4時間又は8時間に亘り30分又は1時間毎に採血した(急性実験)。翌日より本剤1日6錠を投与しほぼ隔日に採血した(慢性実験)。採血したサンプルはすべて血清にし、LH, FSH, PRL 及び E_2 をRIAで測定した。

結果: 急性実験に於ては8時間に亘り血清 LH, FSH に有意の変化は見られなかつた。一方 E_2 は4時間の観察で3例中1例に、8時間の観察では2例ともに増加の傾向を認めた。PRL は本剤により全例有意に減少した。

慢性実験では乳汁漏出症の全例(4例)及び無排卵症の1例において排卵前 E_2 及び LH の Surge を作り4週以内に排卵した。乳汁漏出は本剤服用開始後2週以内に全例停止した。

結論: ① 本剤は乳汁漏出性無月経症に於て乳汁分泌を停止させ、かつ排卵を誘発させる効果をもつ。② 本剤の primary の作用点は不明であるが、8時間の急性実験で E_2 の上昇する症例のあることから、それは卵巣である可能性が示唆された。

質問 (東京医歯大) 西 望

CB-154とヒデルギンと比較して、御使用になつた成績を御持ちでしたらお知らせ下さい。

答弁 (自治医大) 田村 貴

CB-154投与例の内分泌動態を検討した例はありませんが、臨床的に乳汁分泌抑制、乳汁漏出性無月経における排卵誘発効果はほぼ同等と考えます。特に差を挙げるなら CB-154では嘔気嘔吐 etc の副作用を経験しましたが、ヒデルギンでは全くありませんでした。

質問 (群馬大) 佐藤 恒治

ヒデルギン1錠は何mgですか、種々の麦角剤が含まれてると思いますが

答弁 (自治医大) 田村 貴

1錠1mgで3種の麦角剤を等量ずつ含んでいます。

質問 (京都大) 本橋 亨

御提示のケースはいずれも血中プロラクチン値20ng/ml前後のものでありますが、更に高いプロラクチン値を示す例に対する効果はいかがでしょうか。

答弁 (自治医大) 田村 ○○

第1例のプロラクチン前値は85ng/mlでした。現在300 μ g/mlの例にヒデルギン投与して検討中ではありません。

139. Preovulatory Gonadotropin Surge の発現機序の研究: Estradiol (Ed), 17 α -Hydroxyprogesterone (17 α OHP) 及び Progesterone (P) の役割について

(自治医大) 荒木 重雄, 水上 尚典

赤堀 彰夫, 玉田 太朗

目的: preovulatory gonadotropin (G) surge がどのような機序で発現するか議論のあるところである。例えばC放出前にEdが低下することが必要か、17 α OHPが放出のtriggerになるか、さらにG放出と共に漸増するPがG放出のパターンに影響を与えるか否か等、未だ確証はない。私どもはこれらの問題点を解明しようと試み